



いろは通信 夏号

山代温泉旦那衆と魯山人

大正期の旦那衆達は美術談義や茶会、謡を楽しむ為に自宅や宿の離れに別荘を建てる人もいました。山代温泉の人たちは無名の魯山人をあたたかく迎え入れ、中でも旅館「吉野屋」主人の吉野治郎は自ら別荘（現いろは草庵）を提供しました。旦那衆は別荘の魯山人を訪ね、書や美術、骨董について語り、以来別荘は山代の文化サロンとなりました。魯山人は晩年まで度々山代を訪れ、旦那衆との交流を深めていました。魯山人にとってこの地は学びと癒しの故郷だったのでしょ。



加賀の食材に魅了された魯山人

山代の別荘で、魯山人が楽しみにしていたものの一つに、加賀の味覚がありました。

美味しいものには人一倍貪欲であった魯山人が、北陸で開眼させられた食材には、香箱蟹、ズワイ蟹、温泉玉子、鴨鍋、スッポンなどがありました。後の東京「星岡茶寮」時代には、吉野屋が漬けた自家製の沢庵を取り寄せては、よく食膳に取り上げていたそうです。

いろはの室礼

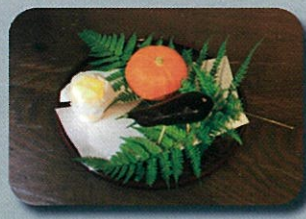
室礼（しつらい）とは季節や人生の節目にあわせた書・花・物などを、床の間や玄關などの場所に飾り、心豊かに楽しむものです。いろは草庵では季節にあわせた室礼をしています。

※いままでのいろは草庵の室礼です。今年は・・・考え中です。..(一_一)!!



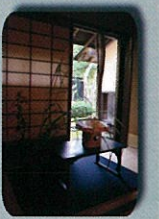
文月（七月）七夕

『七月七日』は五節句の一つで「七夕（しちせき）の節句」になります。昔は梶の葉に願い事や詩歌をしたためお供えしています。当館では毎年お客様に願い事を書いていただいています。



葉月（八月）お盆

『盆』とは祖先の霊を供養する行事です。お盆には祖先の霊が子孫の元に帰るとされています。文字のとおり、本来は霊に対する供物を置く容器を意味します。



長月（九月）重陽/十五夜

『九月九日』は五節句の一つで「重陽（ちようよう）の節句」になります。菊の花、菊酒など、菊尽くしで長寿を願います。『十五夜』は旧暦の八月十五日、新暦では九月に入ることが多く、この日の夜にお月見をするを「十五夜」と呼びます。

いろはの展示室



いろは草庵と魯山人 -あなたの1点-

期間: ~7月4日(火)

今までご来館いただきました方々のアンケートやお声を基に人気の高い作品を一堂に展示しております。



魯山人 -コレクション展-

期間: 7月6日(木) ~ 10月24日(火)

魯山人作品をとおして、夏から秋への季節の移ろいをお楽しみ下さい。

開館15周年企画

2017年10月下旬 ~ 2018年2月上旬

次回予告

「○○○」と「いろは草庵」共催展!?

ホウコク

先日五月十日(水)に「春の演奏会」を開催いたしました。30名様という限られたお客様ではありますが、特別な時間をお過ごしいただきました。



-『特別な時間』第2弾-も考え中
前回とは違う時間を...



いろはのイベント

いろはのお庭



《百日紅(サルズベリ)》

今年は、去年咲かなかった花が咲いたり、毎年咲く花が咲かなかったりと驚きのある初夏をむかえました。

正面入口にサルズベリという樹木があります。このサルズベリは「星岡茶寮」にあったものから株分けしていただいたものです。

いろはの一品

《屏風はがき 260円》

魯山人の屏風をもとに制作されたはがきです。折り筋に沿って折りたたむと小さな屏風になります。屏風の絵は、魯山人が吉野屋別荘(現いろは草庵)に逗留した際に、中庭にある檜(ヒバ)を見て描いたといわれています。 ※檜は今でもあります。



-いろは草庵の前庭-



来館者へのおもてなしが始まる大切な空間として、いろは草庵には、前庭が施されています。和風園庭様式にこだわらない斬新でシンプルな空間をご覧ください。

手水鉢の側面は魯山人の書が彫られています



出迎いの通路に佇めば、白いごろ玉石とひょうたん状の笹で覆われた庭の緑が、逆光を受け、より一層鮮やかに映えるよう演出されています。中心に配されているのは、魯山人が3歳のときに、養母の背から見て感銘を受けたという紅い山つつじ。こうした色彩の妙は、魯山人の作品やその芸術性に共通しています。

魯山人寓居跡いろは草庵

いろは通信紙: 夏号No.2
発行: 2017年6月



〒922-0242 石川県加賀市山代温泉18-5番地
Tel 0761-77-7111 fax0761-77-7110

HP: <http://www.kagashi-ss.co.jp/irohasouan/>
指定管理者: 加賀市総合サービス株式会社



はじめました。

twitter/facebook